

Newfoundland Song Cultures

# ニューファンドランドの歌謡文化<sup>1</sup>

フィリップ・ヘイワード Philip HAYWARD

[森野 聡子 訳]

ニューファンドランドで演奏されるフォークソングの性質やその文化的位置づけを理解するには、この島の地理や歴史といった背景を知っておく必要があります。

ニューファンドランドはカナダの大西洋沖に突き出た大きな島で、ヨーロッパ人がこの島を初めて訪れたのは千年以上昔のこと、スカンジナビア半島から渡ってきたヴァイキングがランス・オウ・メドウズ (L'Anse aux Meadows) と呼ばれる島の北西端に居留地を作り、2年ほど暮らしました。ヨーロッパの漁船がたびたび島を訪れるようになるのが15世紀で、グランド・バンクス (the Grand Banks) という海域で大量にとれるタラが、当時、人口が増大する西ヨーロッパの人々の口を潤します。こうして重要なタラ漁拠点となったこの島を、イングランドが初の海外植民地として宣言するのが1583年のことです。

入植が始まるのは17世紀初めで、イングランドと交易を行う漁師の村、ニューファンドランドで「アウトポート」(out-port) と呼ばれる小さな集落が海沿いに作られますが、他の集落との交流やコ



ニューファンドランド島

(出典 : [http://www.heritage.nf.ca/nfld\\_fullmap.html](http://www.heritage.nf.ca/nfld_fullmap.html))

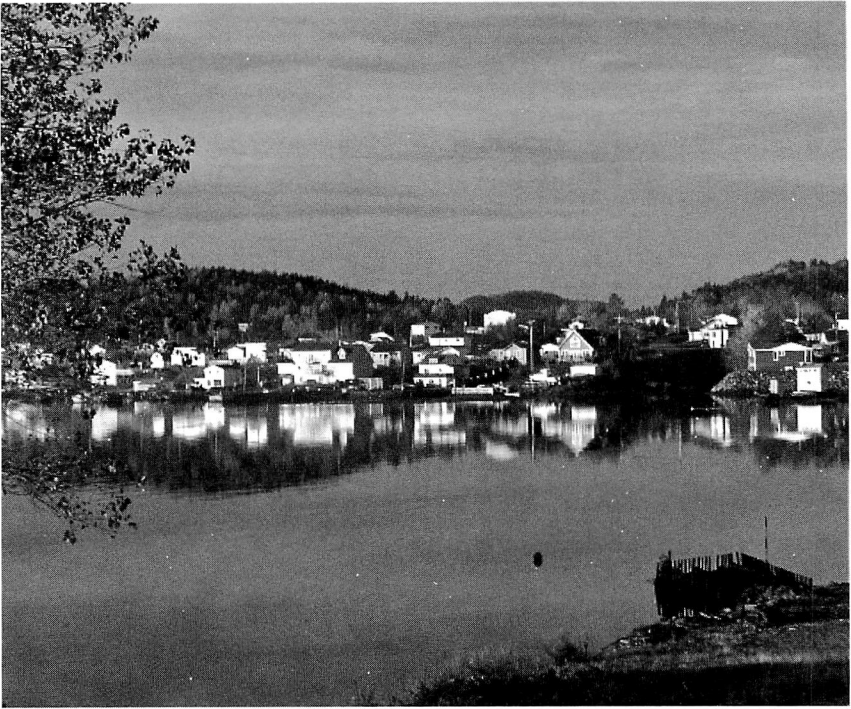
コミュニケーションはもっぱら海路で行われました。道路網が整備されるのは20世紀のことです。入植者が来たとき、島にはベアタク族 (the Beothuk) やミクマック族 (the Micmac) といった原住民が住んでいましたが、ベアタク族は衰退し、ベアタク語の最後の話し手は1829年に亡くなりました。したがって先住民文化の影響は、ニューファンドランドのヨーロッパ移民のフォークカルチャーには見られません。

ニューファンドランドの住民の大半は、ブリテン島とアイルランドから渡ってきた人々の子孫です。そのうち、ほぼ60%がイングランドの南西部、特にデヴォン、ドーセット、サマセットといった州からやって来ました。30%はアイルランド南部、残りはスコットランドとフランスからです。彼らの住む海岸部の集落の大半は20世紀半ばまで孤立していたので、英語やアイルランド英語の方言、特にフォークソングが入植当時から現在まで保存されました。現存する伝統歌謡のレパートリーには、こうした古い英語の歌やアイルランドのフォークソング、加えて、初期の入植者が作った歌が含まれています。ただし、アイルランド語 (ゲール語) の歌については伝承が途絶えてしまい、20世紀以降のニューファンドランドの伝統音楽の構成要素とはなっていません。

ニューファンドランドの伝統音楽の復興はこれまで何度かありました (特に盛んだったのが1960年代です) が、基本的に、ニューファンドランドの伝統音楽は「オーガニックな」遺産であり、その点がより「人工的」な、イングランドのフォークソング・リバイバルや、実にうまく「創造された」、オーストラリアのヨーロッパ人コミュニティのフォークソングとは異なるところです。ニューファンドランドが、アイルランドとイングランドとの文化的絆を維持してきたもう一つの要因は、[カナダの他の地域よりも遅くまで] ブリテンの植民地であり続けたという歴史的事実です。1949年、住民投票が行われ、賛成51%、反対49%の僅差で、ニューファンドランドはようやくカナダ連邦に加盟します。

ニューファンドランドの現在の人口はおおよそ50万人、大多数の島民が沿岸地帯、特に州都であるセント・ジョンズ (St John's) 近辺の、島の南東部に暮らしています。

さて、ニューファンドランドの伝統継承者、ジム・ペインをご紹介します。ジムは1955年にニューファンドランドの北海岸にあるノートルダム湾 (Notre Dame Bay) で生まれました。ジムはシンガーであり、ソングライターであり、さまざまな楽器を演奏するだけでなく、コメディアン、俳優、そして「シング・ソング」<sup>2</sup> というレコード・レーベルの創設者兼社長として、この30年間ニューファンドランドで精力的に活動を続けています。多くのCDを発表、ソロと



ジム・ペインの生まれたノートルダム湾のアウトポート、ロバーツ・アーム (Robert's Arm)  
(写真提供: ジム・ペイン)

して、あるいは、ニューファンドランドを代表するミュージシャン、ファーガス・オバーン (Fergus O'Byrne) とのデュオ、そして「クラウド・オブ・ボールド・シェアメン」(A Crowd of Bold Sharemen) というバンドとしてレコーディングを行っています。けれども、こうした数々の録音にもまして重要なのは、ジムが秀でた伝統継承者であるということです。

「伝統継承者」(tradition bearer) という用語は、言い換えるならば、「ある伝統を真に体現している人物で、その伝統が生まれたコミュニティや集団とじかに接触して伝統を体得した者」という意味です。伝統継承者は著名人であるとは限りません。家族や地域で「ひそやかに」伝統を守る人もいます。けれども、もっとも影響力のある伝統継承者は、ジムのように、伝統様式を忠実に守りながら、それらを新しい文脈で表現することで、伝統が文化の流れの中に生き続け、継承されていくことを可能にする

ような人物です。

このような「伝統継承」と、作爲的にリバイバルを仕掛ける人々が行う「伝統継承」には大きな違いがあります。後者は、フォークソングのような形式を、もともとの背景や意義から切り離してしまうのです。演奏家としてのジムの最大の魅力は、彼がニューファンドランドの伝統音楽を深く敬愛する一方で、それを恭しく奉るのではなく、カジュアルにユーモアをこめて見せている点です。フォークミュージックがコンサートホールで演奏されたり、大学の研究者に大真面目に分析されたりするとき忘れがちなのが、フォークソングはもともと体験の共有——失望、悲しみ、あきらめ、風刺、笑い、喜び、情熱といった感情を含みます——から生まれ、社交の場でともに飲み食いし、踊るとき、あるいはその他もろもろの娯楽の場で歌われるのが普通だったという事実です。ジムはこうした面を演奏に活かしており、それが、彼の歌う伝承歌謡に息吹を与えるのです。ジムはニューファンドランド各地で演奏していますが、たいいていは村の集会所やパブ、そして夏に開催される各種フェスティバルで歌っています。こうしたところが、ニューファンドランドのフォークミュージックが一般的に演奏される場所なのです。

ジムは、別の意味でも、重要な伝統継承者です。もし、フォークミュージックの伝統というものが、単に昔の、お定まりのレパートリーをくり返すだけだったら、「かびがはえて」しまいます。たとえ、アレンジは今風に、レパートリーは新しめにしてもです。ジムが自分で作ったオリジナル・ソングは、ニューファンドランドの伝統歌謡にとって、とても大きな貢献です。ここで二つご紹介します。

#### 1) Empty Nets (空っぽの網) :

題名は、乱獲によるニューファンドランドのタラ漁の衰退と、ほかに雇用の場のない漁師たちが直面している経済的困難を表したものです。地域社会の失業問題はニューファンドランドが抱える大きな社会問題で、多くの若者が島を離れ、トロントなど本土の大都市に働きに出たり、カナダ軍に加わったり、アルバータ州のタールサンド〔合成石油の材料となる油砂〕の鉱山に行かざるをえません。「空っぽの網」という語句は、網に十分な魚がかからなくなったという現実に加えて、比喩的な表現として、職や商売のチャンスがないこと全般を象徴しているのです。

#### 2) Wave over Wave (波また波) :

これは、別の角度から、海と、海に生きる者の心情を歌ったものです。家から

遠く離れて海上にいる主人公、トウィリングゲイト島 (Twillingate Island) 出身の船乗りは、歌の中でこう告白します。「何もない海原の真ただ中、それが俺の一番のお気に入り」。その一方で、毎年10か月もの間、妻や家族から引き離されていることもわかっています。漁師たちの胸中と海へ駆り立てられる気持ちを繊細につづった歌です。家を離れ、遠洋で生計を立てる暮らしはニューファンドランドでは急速に減ってはいますが、こうした生活がアウトポートと呼ばれる漁師社会の礎を作ってきたものなのです。

今回のシンポジウムに招待されるにあたり、伝統音楽の遺産に関する重要な論点をいくつか話すよう要請されました。その一つが伝統の継承です。フォークソングは、どのようにして、またどの程度、新しい世代へと受け継がれていくのでしょうか。そして、このような世代の「輪」は21世紀のニューファンドランドにおいても持続可能なのでしょうか。

この問いかけに答えることは困難です。島内、あるいは島外のニューファンドランダーのコミュニティの中にも、若者たちが年長者から伝統的な方法で歌を習い覚えるような家庭環境や社会状況は存在しますが、こうした慣習は衰退しつつあり、これのみで伝統を守ることはできません。コミュニティの中で、コミュニティの住民や、ジムのようなプロのミュージシャンがフォークソングをライブ演奏することも、歌を継承していく上では重要です。こうした点から注目したいのがニューファンドランドで最も成功している音楽活動、グレート・ビッグ・シー (Great Big Sea) というロック・バンドの活動です。このバンドは1993年に結成されて以来、伝統音楽をレパトリーを中心としてきました。ジムのWave over Waveもカバーしています。そしてニューファンドランドの伝統音楽を、カナダ全国ツアーやCD、DVDの発売、テレビ出演、インターネットなどを通じてカナダ全土に広めたのです。彼らの人気の一端をご紹介します。1999年元旦にセント・ジョンズで行われた野外コンサートは9万人の観客を集めるという、ニューファンドランドの音楽史上最大のイベントとなりました。

ニューファンドランドの伝統音楽の未来は簡単には見定められません。ほかの伝統音楽の行く末も同様です。ニューファンドランドの伝統音楽の恵まれた点としては、地域全体が郷土に対する強い帰属意識 (アイデンティティ) と誇りを持っていることが挙げられますが、その一方で、島から住民が出ていくことで社会的・文化的変化が起こっており、また外国、特にアメリカのメディアや音楽がどんどん流入し人気を得

ています。ニューファンドランドのフォークソングの未来は、次の伝統継承者がどのようにしてジムや彼の仲間が成し遂げたことを継続していくのか、そして、どの程度、人々の心をとらえていくことができるかにかかっています。いわゆる「古典」と呼ばれるような古いフォークソングのレパートリーが、たとえどのような形であれ、これからも残っていくことは確かでしょう。けれども、伝統音楽の未来を支えるのは、時代に即した新しい素材と古い要素、その両方を兼ね備えたレパートリーを作り続けていくことであると信じています。

- 1 2011年12月12日のシンポジウム「カナダ・ニューファンドランド」では、講演者のDr ハイワードが急遽来日を取りやめたことから、当日の解説はコーディネータの森野が行った。本稿は、事前に送られていた講演原稿を訳出したものである。注は訳者による。
- 2 1989年に創設された。活動やアルバムについてはSing Song Inc のホームページを参照された（<http://www.singsonginc.ca/>）。